

シオン通信

大宮シオン・ルーテル教会 礼拝説教集

2006 年 9 月 第 3 号

日本ルーテル教団

大宮シオン・ルーテル教会

〒331-0814

さいたま市北区東大成町 1-229

phone/fax : 048-663-0215

<http://www.eotown.com/O1church/>

秋の訪れです

大宮シオン・ルーテル教会

梁 熙 梅(やん・ひめ)

秋の虫の鳴き声が聞こえるこの頃ですが、いかが暑いときをお過ごしでしょうか。少しは涼しくなってきたかなと思ったら、また暑い太陽が力を増してきました。もう一息乗り越えれば関東の秋を満喫できることを望みみて、わたしは今新しい季節を迎える準備を始めました。秋といえば、北海道の秋を思い出します。2000 年 4 月から北海道の深川へ特別奉仕者として派遣されていた時のことですが、自然の豊かな北海道！ということもあって、北海道で秋を迎えることをとても楽しみにしていました。東京で長い間暮らしていて、東京の秋は韓国より長く、のんびり楽しんでいましたから、東京より自然が豊かだと言われる北海道ではもっと素敵な秋を迎えられるだろうと期待していたのです。ところが、そんなわたしの期待は 10 月を迎えて無残に崩れてしまいました。今でも忘れられないのですが、10 月 18 日に初雪が降り、どの山も車の中から外に出たらあまりの寒さに 5 分以上立っていることを許しませんでした。夏を越えた山は、もう冬を迎える準備で忙しかったのです。期待が大きかった分、失望も大きかったのですが、しかし、そのときから北海道の秋独特の香り、たぶん冬を迎える北の国の香りだと思いますが、それを覚えるようになりました。関東では感じることもない、異国の香り&優しさと表現した方がいいでしょうか…これがわたしの感じる北海道の秋の思いです。長い間味わうことができる関東の秋が大好きなわたしは、この度久しぶりにその機会が与えられました。またさいたまの秋はどのような色をわたしに見せてくれるのか、楽しみです。みなさんも訪れる新しい季節を、ともに味って楽しみましょう。

【お知らせです】 水曜夕礼拝 午後7時～

9 月から毎週水曜日の午後 7 時より夕礼拝が始まります。日曜日に仕事などで教会にいらっしゃれない方々もともに集えられたらと思って、週の真ん中にもう一度礼拝が行なわれるようにしてみました。水曜日の礼拝は日曜日の礼拝と少し雰囲気を変えて、プレイズワーシップソングなどからも歌えるような礼拝作りをしていきたいと思っています。どうぞ、家族や友人をお誘いの上、気軽にお立ち寄り下さい。ともに賛美し、ともにみことばを聞いて、ますます豊かになっていきましょう。楽器など奏でることができる方、大歓迎です。お待ちしております。

聖書のみことば

ゼファニヤ 3 章 18-20 節

わたしは祭りを祝えず苦しめられていた者を集める。彼らはお前から遠く離れお前の重い恥となっていた。見よ、そのときわたしはお前を苦しめていたすべての者を滅ぼす。わたしは足の萎えていた者を救い追いやられていた者を集め彼らが恥を受けていたすべての国で彼らに誉れを与え、その名をあげさせる。そのとき、わたしはお前たちを連れ戻す。そのとき、わたしはお前たちを集める。わたしが、お前たちの目の前で、お前たちの繁栄を回復するときわたしは、地上のすべての民の中で、お前たちに誉れを与え、名をあげさせると主は言われる。

エフェソの信徒への手紙 4 章 1-16 節

そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます。しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています。そこで、「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、人々に賜物を分け与えられた」と言われています。「昇った」というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないのでしょうか。この降りて来られた方が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られたのです。そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。こうして、わたしたちは、もはや未熟な者ではなくなり、人々を誤りに導こうとする悪賢い人間の、風のように変わりやすい教えに、もてあそばれたり、引き回されたりすることなく、むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

マルコによる福音書 6 章 45-52 節

それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸のベトサイダへ先に行かせ、その間に御自分は群衆を解散させられた。群衆と別れてから、祈るために山へ行かれた。夕方になると、舟は湖の真ん中に出ていたが、イエスだけは陸地におられた。ところが、逆風のために弟子たちが漕ぎ悩んでいるのを見て、夜が明けるころ、湖の上を歩いて弟子たちのところに行き、そばを通り過ぎようとされた。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。皆はイエスを見ておびえたのである。しかし、イエスはすぐ彼らと話し始めて、「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。イエスが舟に乗り込まれると、風は静まり、弟子たちは心の中で非常に驚いた。パンの出来事を理解せず、心が鈍くなっていたからである。

説 教

『嵐の中を来られる主』

大人の男だけで五千人を上回るおびただしい群集に食事を与え、飢えて求めている者といつまでもともにいる、絶対に見捨てることはないと堅く約束してくださるしるしを見せてくださったイエスさまは、弟子たちを先に船に乗せました。湖の向こう側のベトサイダへ行かせるためです。湖の向こう側のベトサイダは、ペトロやアンデレ、フィリポの出身地です。ある意味、大きな出来事をともに担って奉仕してくれた弟子たちを里帰りさせ、少しでも休みを取るように、というイエスさまの配慮だったのかもしれませんが。

ところが、弟子たちが乗っている船が湖の真ん中に来た頃、逆風に遭い、歯向かってくる嵐に悩まされる羽目になりました。ペトロもアンデレも、ヨハネもヤコブも、みなプロの漁師であつたけれども、船をうまく漕ぎ出すことができません。彼らはただただこの逆風のゆえに悩むしかありませんでした。今このときは夜が明けようとする朝方です。もう少しで夜の闇が去り、明るい新しい一日が始まろうとするときでした。夜が明けたら湖の向こう側の自分たちのふるさとが見えるかもしれない、ふるさとに着いたら家族と楽しいときを過ごそうと、心は期待でいっぱいであつた

このときでした。ところが、その手前で弟子たちは逆風に遭遇してしまったのです。

マルコ 4 章にも似てるような記事が記されています。イエスさまと一緒に船に乗った弟子たちは、海の向こう側へ渡ろうと言われるイエスさまの勧めに従って船を漕ぎ出しますが、途中で荒波にあつて船が水の中に沈みそうになりました。弟子たちは激しい風や波に脅かされましたが、しかし、このときはイエスさまが船の中に一緒にいました。ですから、弟子たちはイエスさまに状況を訴えることができましたし、イエスさまに荒波や風を鎮めていただきました。しかし、今日はイエスさまが一緒ではありません。イエスさまは陸地におられるのです。山の方へ行かれ祈っておられるのです。

弟子たちの心は不安でどうしようもありませんでした。何と云うことだ！イエスさまもいない！弟子たちは襲ってくる不安を抑えることができません。どうしよう、船がこのまま沈んでしまうかもしれない！漁をするときは上手にできたことも、なぜか今日は慣れた湖での慣れた船の漕ぎ出しもできないのです。途方にくれて我を失いつつある彼らには、湖の上を歩いてこられるイエスさまと幽霊とを区別する力さえ失

ってしまいました。イエスさまの白い衣の姿は弟子たちにとって恐怖を抱かせるしかない、亡霊のような存在でしかないと思われたのです。もうだめだと、彼らはそこで挫折を味わおうとしているのです。

今弟子たちがいる湖はいつ逆風が吹いてきてもおかしくない、地理的に逆風が多いところだと言われます。そんなところへイエスさまは弟子たちを遣わせたのです。というか、そこを通らなければ向こう側のペトサイダへ渡ることはできないのです。弟子たちは通るべき道へと行かされたのです。通るべき道を避けることはできません。そこがどれほど苦しみが多い道であっても、通るべき道であるなら通らなければならない。

ともするとわたしたちは、イエスさまがわたしたちに示してくださる道は平坦な道で、問題も、悩みも、病気も争いもない道であると、どこかでそう思うかもしれません。なのに、どうしてこんなにわたしには波風が絶えないのだろう、身体は病弱で、精一杯がんばっているのにいつも貧乏で、不器用で、どうしてこんなにでこぼこの道ばかり歩かなければならないのだろうと、自分の人生を悔いてばかりいたりはしないでしょうか。

特に、イエスさまに出会ってからは、洗礼を受けてからはもっと滑らかな道が与えられるだろうと思ったのに、前とそれほど変わらない。むしろ以前よりなお激しく、罪に対する刺激がわたしを苦しめて、

以前は気付かなかったことまで気付くようになって、それが自分を苦しめたりするのはどうしてなのだろう。そう思ったりはしないでしょうか。

今日、弟子たちが通っている逆風の多い湖、通らなければならないこの湖は、これこそわたしたちが生きるこの世の人生の畑だといえるところです。プロの出を出して上手に船を漕ぎ出せばすぐに渡れるそんな簡単な道ではありません。漁のプロであるペトロさえ、ヨハネやヤコブやアンデレさえ、船をコントロールすることができないように、進みたいのに逆へと戻されるのです。行きたいところは湖の向こう側なのに、出発したのは最初の時点に後戻りされているのです。まったく人生の歩みの成長がないのです。明日からはもう少し成熟した歩みをしようと思っても、いざとその日を迎えたらまた昨日と同じ歩みをしている自分がこの湖の上にいるのです。

成長のない人間の歩みはすぐ不安をもたらします。どうしてわたしだけがこんなに遅いんだろう…どうしてわたしの子だけがこんなに成長が遅いんだろう…こんなところでこんなことしていたら追いつかないのに…こんなことで悩みたくない、こんなことでつぶされたくない…このような思いの中でわたしたちは、何とかその不安から逃れるために一所懸命吹いてきた逆風に立ち向かいますが、しかし、自分で何とかしようとするほど船は後戻りするばかりです。悩みはいつそう増していくばかり

です。もはや自分が自分でいられなくなってしまう。船をコントロールするどころか、自分自身をコントロールすることさえできなくなる。イエスさまの姿が幽霊と勘違いされていくほど、わたしは自分がわからなくなってしまうのです。心の中が不安で満たされているから、物事を正しく判断することができなくなるからです。

そんな彼らに、嵐の中から聞こえた言葉がありました。

「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」。

イエスが船に乗り込まれると、風は静まり、弟子たちは心の中で非常に驚いた、と福音書は記しています。

「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」。嵐の中から聞こえたこの一言。幽霊だと思っていた白い衣の姿の人は、実は幽霊ではなくイエスさまであった。自分たちを遣わせた方、主ご自身であったのです。この方が船に乗り込まれると、嵐が静まったのです。嵐が消えたのです。不思議なことが起こりました。到底人間の知識からは理解できないことがまた起きたのです。

まるで成長が止まってしまったかのように見えたわたしの人生の歩みが、もう少しでゴールなのに！こんなところまで来たのに！ここで座り込んでしまうの？と、状況を受け止めることができなくて途方にくれて自分を失っていたのに、そんなわ

たしの状況に乗り込んでくださった方がおられる。この方が乗り込まれると嵐は静かになり、わたしはわたしとして、今まで通りに希望の向こう側へ向かって船を漕ぎ出して進むことができるのです。

ともすると、わたしたちは、「わたしが信じるから神さまはわたしの神さまです」と考えてしまいがちですが、しかし、本当はそうではありません。わたしの信じられない頑なな心を神さまが信じてくださっておられるから、わたしは神さまと結ばれているのです。あらゆる状況の変化によって変わりやすいわたしなのに、自分にとって利益になることを中心にして回りを動かして、神さまさえ自分のために動かしていこうとするわたしであるのにも関わらず、神さまは信じてくださるのです、このわたしを。何度裏切られても、そんなわたしを神さまが信じてくださるから、わたしは神さまから離れずに、歩むことができるのです。わたしが信じているからではないのです。

ですから、わたしが、わたしの人生が荒波に出会わされて、わたしが私としていられないそんな日、ゴールの手前で挫折を強いられる絶望の日に、不安でいっぱい心を満たし悩みこんでいるわたしの姿を見ておられる方がいる。そんなわたしを助けに来られる方がいる。わたしが自分を失って途方にくれているときに、**「わたしだ、安心しなさい。もう恐れることはない」**と、わたしに声をかけ、わたしを脅かす嵐を沈ませ、最後まで目標へ向かわせてくださる方

がいる。この方が、今日もわたしと出会うおられ、わたしを遣わそうとしておられるのです。荒波の絶えないこの世へ、わたしの人生そのままをあげて遣わそうとしているのです。恐れを主にゆだねて大胆に船を漕ぎ出そうではありませんか。

大人の男性だけで五千人を食べさせるような奇跡を通して、神さまの大いなる力を見せてくださった方が、今度はその続きで、湖の上を歩いて逆風を鎮められることを通して、偉大なる神さまの力を発揮してくださいました。このように、まことの人間でありながらまことの神であられる方が何より大切にしてくださっているのは、この「わたし」という一人を見ておられると言うことです。わたしの飢えている姿、悩んでいる姿、不安でどうしようもない姿、主を主として見上げることもできないほど自分を失っている姿、状況が怖くて祈ることもできず、叫び続けるしかない弱い惨めな姿、そんなわたしを主は見えてくださっているのです。そんなわたしに主は声をかけ「**安心しなさい。わたしだ。もう恐れることはない**」と、わたしがわたしとしてちゃんと顔を上げて主を仰ぐことができるようにして下さるのです。

この方が、今すぐわたしの目には見えないけれど、手を伸ばしても触れることもできないけれど、わたしの崩れたどうしようもない絶望に満ちた状況に乗り込んでくださる方がおられることを、忘れないようにしたいのです。わたしがこの世で生き

続ける限り、ずっとわたしとともに歩んでおられるということを、忘れないようにしたいのです。わたしたちの信仰はからし種ほどもないけれども、しかし、この方がわたしを絶対に一人ぼっちにしておかないと、わたしたちの傍らに立ち続けてくださる限り、わたしは信じられた者として大胆にわたしの船を湖の向こう側へ漕ぎ出せることを心に刻んで、今日もここから遣わされて行きましょう。

祈ります。

荒波多い歩みの中で途方にくれてどうしようもないときに、ただただ叫んでいるわたしに近づき、「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」と声をかけてくださる神さま、ありがとうございます。信じていると告白しながらも、いざとなったときには何とか自分の力でやってみようと、何とか自分が持っている知識や知恵を使って荒波を乗り越えようと意地を張ってがんばってしまうわたしたちですが、そんなわたしをもあなたは憐れんでくださっています。神さまの計り知れない愛に感謝します。どうか、これからのわたしたちの歩みが、イエスさまと一緒に歩む歩みであることを忘れずに、み手に委ねた歩みでありますように、導いてください。神さまにわたしをお任せすることのできる歩みでありますように。この祈りをわたしたちの救い主、イエス・キリストのみ名を通してお願いいたします。アーメン。

【礼拝予定】

【主日礼拝】 毎週日曜日 朝 10 時 30 分～

9月3日(日) 聖霊降臨後第 13 主日 聖 書：申命記 4:1－8・エフェソ 6:10-20・マルコ 7:1-15 主 題：願える場を確かめて身を置く 讃美歌 203(教会)/339(教団)/396(教会)
9月10日(日) 聖霊降臨後第 14 主日(関東地区交換説教日、鈴木浩先生) 聖 書：イザヤ 35:1-3・ヤコブ 1:2-18・マルコ 7:24-30 主 題：謙虚な信仰 讃美歌 150(教会)/238(教会)/374(教会)
9月17日(日) 聖霊降臨後第 15 主日 聖書：イザヤ 35:4-10・ヤコブ 1:19-27・マルコ 7:31-41 主題：エッファタ（開け） 讃美歌 170(教会)/339(教団)/388(教会)
9月24日(日) 聖霊降臨後第 16 主日 聖書：イザヤ 50:4-11・ヤコブ 2:1-18・マルコ 8:27-38 主題：あなたはわたしを何者と言うのか 讃美歌 178(教会)/262(教団)/395(教会)

【水曜礼拝】 毎週水曜日 午後 7 時～

9月6日 第一水曜日 聖 書：詩篇 1 編 主 題：幸いな人
9月13日(水) 第二水曜日 聖 書：詩編 2 編 主 題：主を避けところとする人は幸い
9月20日(水) 第三水曜日 聖 書：詩篇 3 編 主 題：救いは主のもの
9月27日(水) 第四水曜日 聖 書：詩篇 4 編 主 題：主の豊かさの中に生きる者

（説教主題は今のところの予定です。変更になる場合もあります。）

【その他の集会】 第三日曜日 12 時 30 分～ 聖書をやさしく学ぶ会 随時(希望にあわせて)キリスト教入門講座・面談など

どの集会もどなたでもご参加いただけます。お待ちしております。
 面談や訪問・お祈りを希望される方も遠慮なくご連絡くださいね。
 TEL 048-663-0215/090-6872-6704 Eメール：himei-y@oregano.ocn.ne.jp